

紀 建 第 6 7 4 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

和歌山県海草郡紀美野町動本278番地

紀美野町長 寺 本 光



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった、標記の件について、別紙のとおり提出しますので、よろしくお取り計らい願います。

記

- 1 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など
- 2 地域の目指すべき将来像
- 3 地域の現状と抱える課題
- 4 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

和歌山県海草郡紀美野町

本町は、和歌山県の北部に位置し、和歌山市へ27km、海南市へ10km、関西国際空港まで53kmと都市部に比較的近距离に位置するものの町内の幹線道路の整備が遅れ、生活関連施設や中核医療施設への所要時間の短縮が改善できていない状況にあります。

幹線道路は、東西に走る国道370号と県道7路線で構成されていますが、特に国道370号は、海南市を起点に本町を通り、かつらぎ町を経て世界遺産である霊場高野山に通じる主要幹線道路(通称:高野西街道)として位置づけられています。道路幅員が狭く、通過する車両が増えている状況で、主要幹線道路としての機能を果たしていない状況であり、未改良区間のより一層の整備促進が急務と考えています。

又、東南海・南海地震が高い確率で発生すると予想されていますが、地震が発生すると土砂崩壊・道路欠陥等により道路が寸断され、集落が孤立すると思われる地域が多くあり、これに対処すべく、平成18年度より防災ヘリポートを町内に16箇所を設定し、物資の輸送やドクターヘリによる被災者の輸送路確保のための整備や平成19年度に防災行政無線を全域に設置し、災害情報等を住民にいち早く知らせたり、避難所には、住民等の情報収集ができるよう相互通信と言う設備を設置し、災害発生時に備えての対応がなされているところであります。しかしながら、避難所やヘリポートへ通じる道路網の整備が遅れ、緊急事態に対応しきれないのが現状であります。

幹線道路へ接続する町道網の計画的かつ着実な整備を行い、点在する集落への連絡道路又、災害時の被災者や物資の輸送のための輸送路を、早期に整備する事が最重要課題となつているところであります。

道路は、生活を行なう上の基盤であり、交通の円滑性・安全性を確保するため、基準を設け施行されていますが、地方の中山間地域における急峻な地形条件では、道路設計基準が緩和されてはいるものの、非常に困難な箇所が多く、町財政厳しい中、多額の費用を投じなければならない状況にあり、地方の実情に即したさらなる基準の緩和をお願いしたい。 又、本町における『命の道』である国道370号をはじめ当地域の道路網の着実な整備促進のための道路財源の確保を切にお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－２ 地域の現状と抱える課題

和歌山県海草郡紀美野町

○ 現状

人口の減少と少子高齢化

本町において、昭和55年をピークに人口は右肩下がり傾向が続いています。又、未婚・晩婚化の傾向が進み、急速な少子化が進行している。紀美野町の人口は11,325人(H20.8月現在)で、ここ10年以降に1万人を割り込み、65歳以上の高齢者が45%を超えると推測されています。

道路網の整備

主要幹線道路の国道370号は、本町を東西に走り、町西部の玄関口で、世界遺産の霊場高野山に通じていますが、未改良区間が多く道路幅が狭く、車両の急増より、早期改良が必要である。

又、県道7路線と町道は、近隣市町村や点在する集落との生活道路であり、急カーブ等が多く車両の対向に苦慮している状況である。

地域の要望に対応しきれない状況である。

○課題

少子高齢化社会が進み、人口の減少は避けられない状況であります。住み続けたい人が住めるための環境整備・改善を行い、住みたい人の受け入れが、円滑に行なえるようにして、定住人口を確保することを目標としたい。特に住宅対策や交通条件の改善を重点に、就労・雇用の場を提供できるよう地場産業・農産物加工等の事業を含め、都市との交流に取り組む体制を造る必要がある。

これらを支える基盤として、道路整備は欠かすことのできないものであります。

幹線道路である国道、県道の整備を順次要請し、それに接続する町道の整備を行い、町全域が平等に経済効果を発揮すると共に、災害時の迂回路、集落間の交流、通勤通学等通行の安全を強化する。

中でも国道370号と県道高野口野上線は、貴志川・真国川紀美野町を東西に走り、主要路線であると共に、紀美野町の生命線であります。しかしながら、整備が遅れ、医療機関への搬送・災害時の物資等の輸送に対応しきれない状況にあり、早期に改良・改善する必要がある。

快適なくらしと安全で安心な町づくり

町内外の交流を活性化すると共に、多様な交通手段の確保に努め情報の円滑化と住民サービスの向上を図る。

又、自然災害に対応できる防災対策に努め、防災組織や災害弱者の支援体制の強化を進める。

将来、予想される東南海・南海地震に備えて、道路網整備の促進と医療施設への搬送路の確保に加え所要時間の短縮が望まれている。

観光と都市交流

町南側に展開する生石高原、北側のふれあい公園、東側には、天文台・毛原オートキャンプ場・かじか荘の温泉施設があり、年間多くの観光客が訪れています。 以外にアユ釣り、ヘラブナ釣り又、地域資源を生かした体験学習・未来塾での交流事業を含め多くのメニューを提供しています。

大阪府を中心に県内の近隣市町村から、年間約70万人が訪れています。

点在する各集落には、極小で屈曲した急勾配の道路が接続されていますが、高齢者は、住民サービスや医療機関への通院等は、広い道路まで徒歩で行かなければならないのが現状であります。

将来、予想されている大地震に備えての道路整備は、安心した生活を送る上で、重要な課題であり、町としても早急に推進していかなければならないと考えています。

観光資源や観光施設は、町全域に分散され道路整備が遅れていることから、大型バスの往来は困難で、団体での観光には制約があり、大半は自家用車での観光となります。

観光は、地域経済の活性化を果たす上で、重要な役割があり、地場産物の販売の拠点として一層の強化を図っていききたい。 又、農産物の加工施設を利用して、付加価値を高め販売できる体制造りを進めていききたい。

休耕田、改廃する農地を活用し、米・野菜づくりの体験やオーナー農園を運営し、都市住民との交流又、ふるさと定住の促進に努めて行くための基盤である道路整備に力を注いで行きたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②-2地域の目指すべき将来像

和歌山県海草郡紀美野町

本町の緑豊かな風景、貴志川水系の清流、空一面に広がる満天の星空など、紀美野町の自然は、住民誰もが誇りであり、ここに暮らす人々、訪れる人々に潤いと安らぎを与える最も大切な資源であり、この自然環境を大切にし、次代に継承するまちづくりのために様々な地域課題を住民と行政がともに力をあわせて進めているところであります。

町合併後に策定した長期総合計画を基に、今後のまちづくりを重点的に取り組んでいかなければならない課題として、定住環境の整備、地域資源の活用、多様なネットワークの形成、地域一体感の醸成と住民活動の促進、新しいまちづくりの仕組みの構築等、今後克服すべき問題点が沢山あります。

特に、人口減少と高齢化が著しく、集落の存続、生活の維持が困難になってきている地区の増加も懸念されており、人口減少に歯止めをかけるための対策を最優先的に取り組んでいるところです。

どの課題を取っても、本町のような中山間地域では、道路環境の整備を進めなければ改善されない問題点が多く、本町の幹線道路である、国道370号を中心に県道7路線、幹線道路に接続する町道網の整備を促進して行くことが、不可欠と考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

和歌山県海草郡紀美野町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
ア. 道路構造令のさらなる緩和 幹線道路への交差の規定 幹線道路への取付区間の勾配規定 道路計画勾配の規定 イ. 特定財源から一般財源への移行に伴う道路財源の確保	・歩道2.0m以上を地形その他の理由で、1.5mに縮小した。 ・市町村道山地部第3種第4級の2車線道路を地形その他の理由で1.5車線で実施した。 ・設計速度30km/hを20km/hとした。	ア. 急峻な地形での道路設計では、多額の費用が必要で、新設改良延長がなかなか伸びないのが現状である。町財政も厳しく、基準が尚一層緩和されれば、進捗が良くなり、早期に効果が発揮できる。 イ. 幹線道路である国道370号の進捗率は50%程度で、予算を確保して頂き町全域が早期に効果が発揮できるようお願いしたい。	ア. 住民の多くは山腹の急峻な地形を利用して集落が点在しています。点在する集落と集落には、屈曲した急勾配の町道が接している状況です。地域の状況に応じた道路計画の実施ができるよう配慮願いたい。 イ. 道路行政の遅れた地方には、まだまだ必要な道路が取り残されています。住民が安心・安全な生活を送るための基盤である道路は、住民からの期待も大きく、予算の確保が不可欠と考える。